

聴覚障害をもつ歯科技工士のよりよい理解のために



筑波大学附属聴覚特別支援学校
歯科技工科

〒272-8560 千葉県市川市国府台2丁目2-1

電話：047-373-8771 FAX：047-373-8789

Eメール：sigika01@deaf-s.tsukuba.ac.jp

目次

1. はじめに
2. 聞こえの様子
3. 職場での接し方
4. 手話通訳者の委嘱
5. 指文字表

1. はじめに

聴覚障害者は、外見からは障害をもっているように見えず、一般の人に正しく理解されにくいという面があります。

聴覚に障害を持っていない人は、生活や仕事に関する情報の多くを視覚によって認識する文字情報と、聴覚によって認識する音声情報から手に入れています。したがって聴覚障害は単に聞こえない、あるいは聞き取りにくいということだけでなく、情報の受け入れ口が狭まっていることでもあるのです。

具体的に、聴覚障害者が歯科技工士として働く場合、個人差はありますが作業上の音が聞こえにくい、話し言葉が聞こえにくいなどの問題点が考えられます。

また、情報の不足や偏りは、コミュニケーションが円滑にいかないだけにとどまらず、時に対人関係に消極的になるといった心理的な問題を引き起こす場合もあります。

ここでは、本校卒業生が歯科技工の職場で働く上で一緒に働く皆さんに知っていただきたいことをまとめました。

彼らが周囲の方々から正しい理解を得て、社会の一員として楽しく働くことのできる職場環境となるための一助になればと願っています。

2. 聞こえの様子

聴覚障害には伝音性難聴と感音性難聴があります。歯科技工科の生徒のほとんどは感音性難聴で、音が小さく聞こえるだけでなく、途切れたり歪んだり、高音が聞き取りにくかったり低音が聞き取りにくかったりします。ですから、音を大きくするだけでは聞こえの問題は解消されません。

図1、図2に補聴器をつけたときの聞こえの様子を表してみました。

図1 伝音性難聴と感音性難聴の違い

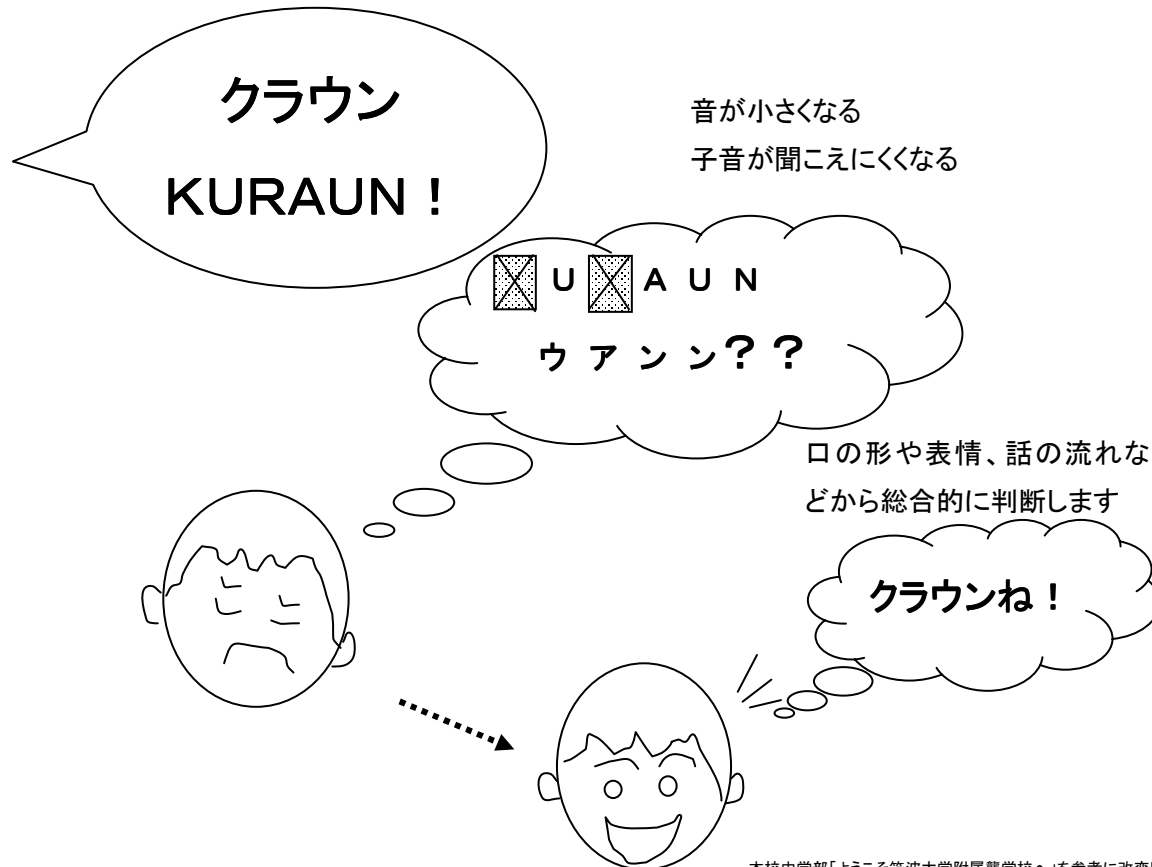
＜伝音性難聴＞

あ → あ 小さく聞こえます

＜感音性難聴＞

あ → あ 小さく聞こえるだけでなく、途切れたり歪んだり
人によって高音が聞き取りにくかったり低音が聞き取りにくかったりします。

図2 ある人の聞こえの様子（個人差が大きいので一例にすぎません）




本校中学部「ようこそ筑波大学附属豊学校へ」を参考に改変しました

図3は、身の回りの音を「音の強さ」という観点からまとめたものです。

聞こえに障害のない青年期の人聴力が 0dB(デシベル:音の強さの単位)です。個人差はありますが、歯科技工科の生徒が補聴器をつけていないときに聞こえ始める音の強さは 70～130dB です。つまり補聴器をつけていないとき技工作業音は全く聞こえていないことになります。

図 3 身の回りの音の強さ

言語音	生活環境音	技工作業音
0(dB)健聴者が聞き取れる最小の音		
10		
20 ささやき声: 耳元		
30		蛇口から流れる水の音: (30 cm)
40 小声の会話: 1m		トリマーの回転音: (1m)
50	静かな事務所	ハンドピースの空回り音: (1m)
60 普通の会話: 1m		レーズのバキューム作動音: (1m)
70 大声の会話: 1m	技工室	集塵機の作動音: (1m)
80 叫び声: 耳元	蝉の声	
90		エアガンの音: (1m)
100	電車の通るガード下	
110	車のクラクション	
120	ジェット機の爆音	



130

()内は音源からの距離

3. 職場での接し方について

《作業音》

- ・聞こえの様子の項でも書きましたが、歯科技工科の生徒の多くは補聴器をつけないと、技工作業音はほとんど聞こえません。補聴器を装用することで、音や音源の存在に気付くよう努めていますが、それには限界があるので、周囲の方からの気づいた一声があると助かります。また、補聴器は聞きたい音だけを大きくするのではなく、周囲の雑音までも大きくしてしまうので、話し言葉が聞き取りにくかったり、音の大きさに耐えられずに補聴器をはずしてしまうこともあります。

《話し方》

- ・補聴器をつけても、耳に入ってくる音をことばとして聞き取ることはできません。補聴器を通して聞いた音の他に、視覚を通じて入ってくる口の形や顔の表情、会話の前後の流れなどから総合して判断・理解しますので、普通に聞こえると思って早口で話したりしないで、ゆっくりはっきりと話すなど話し方の工夫が必要です。

- ①正面を向いて
- ②はっきりとした口形で
- ③意味のまとまりごとに区切って自然なリズムで話す

良い例)「あなたは」「カービングが」「得意ですか」

悪い例)「あ」「な」「た」「は」「カー」「ビ」「ン」「グ」
「が」「と」「く」「い」「で」「す」「か」



- ・声をかけても振り向かない時には、側に行って肩をたたいて知らせしてから話しかけてください。
- ・暗い場所や光を背(逆光)にして話すと、話し手の口の形がよく見えないので立つ位置に注意して下さい。
- ・補聴器は騒音の少ない所で、一人の相手と、近づいて話す時に効果を発揮します。逆に、騒音の中や人ごみの中での会話や、離れた人の声を聞くのには雑音が多くて聞こえにくいのです。
- ・聴覚障害者にとって、初めて接する健聴者の口の形を読み取るのは大変難しいのですが、慣れてくれば分かる言葉も多くなります。同じ言葉を2, 3回繰り返しても伝わらないときは、言葉や表現を変えてみるのもよい方法です。また、二重否定などの複雑な表現は避けた方がよいでしょう。

《確認の仕方に工夫を》

- ・「わかった？」と聞かれるとつい頷いてしまうことが多いようです。

理解できるまで何度でも聞きたいと思う反面、なかなか伝わってこないと聞き返すのを遠慮してしまうこともあるようです。場合によっては、復唱や筆談で確認することが望ましいでしょう。

《筆談》

- ・話しかけて分からない時や作業上の大切なことは、紙に書くと、意味を取り違えて間違ったりすることを未然に防ぐことができます。文の言い回しや書き方は、短くて分かりやすい表現で記述すると理解しやすいです。



《職場のミーティング》

- ・職場のミーティングでは、参加をしても話しの流れに乗ることができず、寂しく不安な気持ちでいることも多いようです。職場内に一人でも指文字や簡単な手話を使って話しをする人がいると、肩の力を抜いて話し合いに参加できます。指文字や簡単な手話を覚えていただくとありがたいです。お気持ちのある方は本人に声をかけてみてください。

《休憩時間や業務後の飲み会などでのコミュニケーション》

- ・前述の通り、聴覚障害は、聞こえない、あるいは聞き取りにくいということだけでなく、情報の受け入れ口が狭まっています。コミュニケーションの困難さや情報不足の不安などから、周りの方との交流に強い緊張感を抱いたり、相手の話がうまく伝わってこない、あるいは相手の話を間違って理解するなどの失敗を恐れてなかなかうまく心を開けなくなったりする人もいます。心の壁を取り除くためには、周囲の方々からの積極的な働きかけが大切です。仕事の上でのコミュニケーションの大切さはもちろんのことですが、休憩時間など仕事以外の場面でのコミュニケーションを大切にしていただけることを願っています。

4. 手話通訳者の委嘱

- ・職場内研修会や外部団体等の研修会に参加する時には、助成を受けて手話通訳者を委嘱することができます。聴覚障害者本人と相談の上、ご利用ください。

手話通訳者の委嘱先:

- ・独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 HP <http://www.jeed.or.jp/>
- ・各都道府県の障害者雇用促進協会
- ・千葉聴覚障害者センター 手話通訳設置派遣事業担当
TEL 043-308-6372 FAX 043-308-5562

5. 指文字

指文字は肩の横でゆっくり使います。あまり長い音節や文を速く表すと、相手に読み取りにくくなります。

<p>人差し指、中指、薬指でWの形をつくる。</p>	<p>マニュアル・アルファベットの「R」の形。</p>	<p>親指と小指をたててYの形をつくる。</p>	<p>人差し指、中指、薬指を下に向けて伸ばす(甲)。</p>	<p>人差し指と中指をそろえ少し下向きに前へ出す。</p>	<p>人差し指と中指をそろえて手前へ出す。</p>	<p>親指を立てる。</p>	<p>薬指を親指にかけ、手を握る。</p>	<p>マニュアル・アルファベットの「K」の形。</p>	<p>マニュアル・アルファベットの「A」の形。</p>
<p>「ン」のはねる形。「ン」を空振する。</p>	<p>人差し指と中指で「リ」の形をつくる。</p>	<p>人差し指、中指、薬指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>薬指が「ミ」の形(甲)。</p>	<p>人差し指を立てる。</p>	<p>薬指が「ニ」の形。</p>	<p>小指を立て、親指と中指の立端を揃える。</p>	<p>中指が「シ」の形。</p>	<p>人差し指を立て、薬指を親指にかけ、手を握る。</p>	<p>マニュアル・アルファベットの「I」の形。</p>
<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>親指、人差し指、中指で「ル」の形をつくる。</p>	<p>薬指が「ヨ」の形(甲)。</p>	<p>薬指が「ム」の形(甲)。</p>	<p>親指と人差し指で「フ」の形をつくる(甲)。</p>	<p>人差し指を立て、中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>小指を立て、親指と中指の立端を揃える。</p>	<p>親指、人差し指、中指を立て、薬指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>薬指が「ク」の形(甲)。</p>	<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>
<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>親指、人差し指、中指で「レ」の形をつくる。</p>	<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>親指と人差し指で「メ」の形をつくる、他の指を立てる。</p>	<p>親指と小指で「ヘ」の形をつくる(甲)。</p>	<p>薬指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>手のひらを相手に向けて出す。</p>	<p>中指を立てる。</p>	<p>親指を立て、薬指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>マニュアル・アルファベットの「E」の形。</p>
<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>親指と人差し指で「モ」の形をつくる、他の指を立てる。</p>	<p>手を少し握り、手のひらを相手に向けて出す。</p>	<p>人差し指を立て、中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>人差し指と中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>人差し指を立て、中指を立て、親指を立て、甲を相手に向ける。</p>	<p>4本の指を立て、手のひらを相手に向けて出す。</p>	<p>親指と中指を立て、薬指を立て、甲を相手に向ける。</p>

また、本校歯科技工科では、歯科技工専門用語手話を作成しました。ご覧になってみて下さい。

<http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/sigika/shuwa/>